Junior Red Cross 新聞

第一回生徒部会

前橋地区高等学校青少年赤十字第一回生徒部会では、昨年度の活動報告と、今年度の活動計画を各校発表し、他の学校の了尺部がどのような活動をしているのかを知ることができた。

交流会では、チームでバスタやテープ、マシマロなどでタワーを作るマシュマロチャレンジをした。他の学校の人とを自然にコミュニケーションがとれた良い機会だった。

8月生徒部会

〈献血について〉

献血についてのビデオやポスター作りを通して多くのことを学ぶことができた。また、私たちのような若い世代の献血者の割合が最も少ないことを知り、16歳になったら献血をしてみようという気持ちになった。

〈救急法〉

自分や周囲の人がけがをした時の対処法を、実践することでより詳しく学ぶことができた。この学んだ技術を使って、緊急の出来事や災害時に役に立ちたいという気持ちが生まれた。とても良い経験になった。

〈手話学習〉

実際に聾学校の生徒さんと手話を使ったクイズをすることで、楽しく手話を学ぶことができた。また、他の学校の人に手話で自己紹介をしたりして手話に関心を持つことができた。耳の不自由な人に出会ったら手話で積極的にコミュニケーションをとりたいと思った。

献血について

七月二十一日(日)に日本赤十字社群馬県支部で行われた「青奉と献血を考える会」に参加した。青奉のみなさんと献血セミナー・献血についてのディスカッション・献血広報パネルの作成をした。献血は常に必要であるが近年献血者数が減少している。現在、少子高齢化と若年層の献血者が減少していて八年後には約八十五万人分の血液が不足すると言われている。だから今こそ献血について学ぶ大切な時期だと思う。血液は人工的に作ることができないから多くの人の協力が必要でわずか四十分で助かる命があり献血は患者さんの生きる希望である。私たちにできることは少ないから献血への知識を増やし広めていこうと思った。

※青奉とは群馬県赤十字奉仕団の略